

普及活動情勢報告（平成28年10月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

商品開発して東京駅で売ることが目標 ～6次産業化セミナーを受講中～



生地混ぜ方を習得中

9月27日、いの町総合保健福祉センターで6次産業化セミナー実践コース（既存の商品をより良いものに）の実技指導が行なわれ、高知市から「まあるい心ちゃれんじどの応援団」の「菓子工房レネー」が受講しました。中村氏・白田氏の両アドバイザーから、クロカントスコーン生地の混ぜ方やアイシングの付け方、商品としてのスコーンの形状やアイシングの色合い、パッケージングなどについて助言いただきました。普及所としては、助言どおりの実技や原価計算について確認しながら、次回セミナーまでに完成品を持参できるよう支援していきます。

天候不順を乗り切れ！ ～JA高知市長浜ピーマン部会現地検討会～



各ハウスを巡回して、意見交換

9月28日、JA高知市長浜ピーマン部会が現地検討会を開催し、生産者など6名が参加しました。参加者全員で、定植後の各ハウスを巡回し、生育状況や栽培管理で気になる部分について検討しました。普及所からは、草勢管理のポイント（温度・灌水・誘引方法）について指導しました。

生産者からは、「定植後、天候が悪くて徒長気味で、水管理を気にしている」「高湿度の日が続くので、黒枯病の予防をしよう」といった声が聞かれ、これからの栽培管理について参加者間で理解が深まりました。

今後も、普及所はJAと協力して、ピーマンの生産向上を目指して活動していきます。

地域の実情に合った集落営農を ～大津地区移動農業委員会における講習～



熱心に聞き入る参加者達

10月14日、JA高知市大津支所において、大津地区移動農業委員会が開催され、24名が参加しました。普及所からは、集落営農に関してよく聞かれる質問を中心に、集落営農の実情や取り組み方等を説明しました。参加者からは、「補助事業はどのような要件が必要か」「様々な農地の活用方法を検討すべき」などの意見や質問がありました。結果、一部の参加者から集落営農を取り組んでみようという機運が高まりました。

普及所では、地域の特性に応じた集落営農組織の育成を今後も支援していきます。

さらなる環境制御技術の導入を ～JA 高知春野キュウリ部会勉強会～



説明に熱心に聞き入る生産者

JA 高知春野キュウリ部会は 10 月 17 日に 18 名の参加者で、「キュウリ栽培のポイント・炭酸ガス施用」についての勉強会を行いました。普及所からは「生育調査（葉幅・開花位置・収穫位置）と灌水量の推移、細霧の稼働」について説明をしました。生産者から「ハウス内の温度・炭酸ガス濃度を調査して今できることから取り組もう」「収量がアップすると雇用費が増加するのか？」という意見や質問があり、新たに取り組む人が出てきました。普及所はさらなる収量アップに向けての実証ほでの調査や炭酸ガス施用ほ場の巡回指導を行います。

百花繚乱（ひゃっかりょうらん）を目指して ～JA 高知市草花部会～



ストックの生育を確認する生産者

10 月 21 日、JA 高知市草花部会は、今年 1 回目の現地検討会を開催しました。部会員のほ場は、土佐山から鴨田までと立地条件が様々なうえ、ストック、トルコキキョウ等品目も違ってきます。普及所からは、各ほ場のこれまでの傾向から、注意が必要な病害虫について情報提供し、採花率アップに向けて意識統一を図りました。品目が違う他の生産者の工夫や技術を見る事は、各人の品質の向上や栽培の効率化に向けた、重要なヒントになったようです。

今後は、灰色かび病の発生が多くなる季節に入ることから、予防を心がけた管理を指導し、計画的な出荷を目指します。